

## 言語文化教育研究学会 第10回年次大会プログラム

※部屋番号は変更となる可能性があります。最終版は2月15日以降に公開されるプログラムにてご確認ください

色と色のプログラムはハイブリッド形式、色のプログラムは対面のみです。  
色は発表者がオンライン、色は発表者が対面、いずれも参加者は対面・オンライン両方で参加可能、会場ではZoom配信します。

一日目：2024年3月2日（土）

10:00-10:15 開会式 (23番)			
10:20-11:50 フォーラム (対面のみ)			
23番	24番	26番	27番
ことばの教室に物語の創作を取り入れよう！—ショートショート作家・田丸雅智さんに聞く学習者と楽しむ創作活動のコツ—  (小松麻美, 神戸芸術工科大学/田丸雅智, ショートショート作家)	「子ども×複言語×大学生」教育実践とジレンマ  (澤邊裕子, 東北大学/植村麻紀子, 神田外語大学/中川正臣, 城西国際大学/安井朱美, 名古屋外国語大学)	やってもやってもどこにも辿り着かない私から私たちへ—質的研究を語るプロセス—  (藤原京佳, 大阪大学/嶋本圭子, 和歌山大学/末松大貴, 名古屋大学/八木真奈美, 駿河台大学)	動画教材から始める市民性教育—NHK for School「多文化共生プレイリスト」を素材に—  (草谷緑, (株)NHK エデュケーショナル/佐藤真久, 東京都市立大学大学院/藤川純子, 三重県四日市市立内部中学校/鎌田理子, 千葉市立稲浜中学校/吉田祥子, 東京都江戸川区立清新ふたば小学校)
11:50-12:50 昼休み			
12:50-15:50 口頭発表 30分・40分			
口頭発表 (発表者 Zoom)	口頭発表 (発表者対面)		
23番	24番	26番	27番
12:50-13:20 言語使用意識と使用実態の相違—いか釣り漁船で働くインドネシア人技能実習生への調査から—  (西村愛, ブラウイジャヤ大学)	「あの子」問題を再考する—「子」の使用による相互行為達成の視点から—  (勝部三奈子, 立命館大学/加藤林太郎, 神田外語大学)	初任日本語教師を対象にしたケース学習の試行—態度を涵養する研修構築を目指して—  (鴈野恵, 筑紫女学園大学/香月裕介, 神戸学院大学)	小学校英語教育における「豊かな話者」(resourceful speakers)としての教師  (大石海, 東京大学)

言語文化教育研究学会 第10回年次大会 言語文化教育研究とは何か

23番	24番	26番	27番
<p>13:25-13:55 外国人児童生徒等の教育における実践者の実践的力量とその形成過程に関する事例研究—日本人大学生の実践と省察による記録の跡づけから—</p> <p>(半原芳子, 福井大学)</p>	<p>職場における「女子トーク」をかたちづくるもの／モノ—小型化されたモビリティーズとしてのケータイを媒介にした—見スムーズとはいえないやりとりをめぐって—</p> <p>(大平幸, 立命館アジア太平洋大学)</p>	<p>エジプト人日本語教師メルさんの職業観変容とその過程—ライフストーリーインタビューを通して—</p> <p>(近藤弘, 北海道大学)</p>	<p>教員養成過程において経験した当事者研究は、その後の教員生活にいかにか活かされているか</p> <p>(中川篤, 広島大学)</p>
<p>14:00-14:40 日本語教師のキャリア形成における日本語教育観の意識化・明確化の意味—複線径路等至性アプローチを用いて—</p> <p>(高井かおり, 東亜大学)</p>	<p>日本語教師が日本語教育用の SNS をやめた理由として「自分はその業界の一人になれていない気がする」と述べていた背景—旧 Twitter の閲覧をやめた寺山さんの語りの分析から—</p> <p>(末松大貴, 名古屋大学)</p>	<p>介護の技能実習生と「聴く」ことをめぐるディスコース—「私はリアクションが苦手」の背景にある文化—</p> <p>(小川美香, 筑波大学)</p>	<p>地域の日本語教室においてボランティアが学習者主導型活動を試みる背景—7名のボランティアへのインタビューから—</p> <p>(瀬井陽子, 大阪大学)</p>
<p>14:45-15:15 TEM による英語基準学生の進路決定プロセスの分析—非英語圏の大学にある英語プログラムに進学したのはなぜか—</p> <p>(荻田朋子, 関西学院大学／稲田栄一, 関西学院大学)</p>	<p>外国人介護人材が感じたマイクロアグレッション—受け入れ施設の変容の可能性—</p> <p>(神山英子, 淑徳大学)</p>	<p>複言語複文化の環境におけるバーバル及びノンバーバルコミュニケーション—福岡市西区 H サロンの事例研究—</p> <p>(李曉燕, 九州大学／山田穂乃佳, 九州大学)</p>	<p>「いま」活動する日本語ボランティアを育成する—理想と現実のバランスへの研究者のかかわり—</p> <p>(飯野 令子, 常磐大学)</p>
<p>15:20-15:50 ベトナム短期海外研修に参加した学生の内面的な変化—BEVI を用いた分析から—</p> <p>(瀬尾匡輝, 茨城大学／小西達也, ハイフォン大学)</p>	<p>継承語を継承しなかった移民 2 世の言語意識とアイデンティティ—母語、継承語、英語の 3 言語から—</p> <p>(中家晶瑛, お茶の水女子大学)</p>	<p>マルクス主義的言語観による内容言語統合型学習 (CLIL) の再評価—欲求・対象・社会的関係から編まれる歴史からの考察—</p> <p>(包蕊, 京都大学)</p>	<p>日本語教員養成課程の学生による自律学習支援の効果と課題</p> <p>(内山喜代成, 桜美林大学／桂莉奈, 東京早稲田外国語学校／栗田晶, 早稲田大学)</p>

15:55-17:35	15:55-17:25 フォーラム（対面）		
口頭発表 30分（発表者対面）			
23番	24番	26番	27番
15:55-16:25 日本語指導担当者が抱えていた課題 —心的態度を表す語に着目して—  (村上智里, 関西大学)	はずれっちの冒険—複言語教育実践 の一例としての多言語解読活動—  (山本冴里, 山口大学)	ダイバーシティ・エクイティ&インクル ージョンをめぐるスローガンの趋向と 陥穽  (宮本敬太, 立命館大学/中井好男, 大阪大学/瀬井陽子, 大阪大学)	語りと映像から考える永住帰国したサ ハリン残留日本人とその家族のことば と文化  (佐藤正則, 山野美容芸術短期大学/ 三代純平, 武蔵野美術大学/斎藤弘 美, NPO 法人日本サハリン協会/金 サジ, 写真家)
16:30-17:00 ブラジルの日系日本語学校はどこに向 かうのか—マリリア日本語学校の学校 活動の事例研究—  (中澤英利子, 横浜市立大学)			
17:05-17:35 日本語教育×性—性にまつわる日本 語教育実践への認識と切実さ—  (萩原秀樹, インターカルト日本語学 校)			

二日目：2024年3月3日（日）

10:00-12:30	大会企画フォーラム「言語文化教育研究とは何か」（対面・オンラインハイブリッド形式）
<p>話題提供者：牛窪隆太, 東洋大学/三代純平, 武蔵野美術大学/牲川波都季, 関西学院大学/北出慶子, 立命館大学/ 南浦涼介, 広島大学/嶋津百代, 関西大学/松田真希子, 東京都立大学/中井好男, 大阪大学/ 佐野香織, 長崎国際大学/湊淳, 茨城大学/福村真紀子, 茨城大学/笹井一人, 茨城大学/田嶋美砂子, 茨城大学</p> <p>全体進行：宮本敬太, 立命館大学/瀬井陽子, 大阪大学</p>	
12:30-13:20	昼休み

13:20-15:20 ポスター発表 (対面)			
1 (11番)	2 (11番)	3 (11番)	4 (11番)
<p>13:20-14:20 日本語教師は「質の会議」をどう捉えたか—有識者会議への反応から見る新法への期待と懸念—</p> <p>(加藤林太郎, 神田外語大学/尾沼玄也, 拓殖大学)</p>	<p>13:20-14:20 内的言語行動が日本滞在および日本語習得へ及ぼす影響—1960年代に来日した外国人宣教師の語りから—</p> <p>(松本美香子, 早稲田大学)</p>	<p>13:20-14:20 ベトナム人日本語学習者の漢越語の使用状況と意識の比較—日越両国のデータから—</p> <p>(上本洋平, 早稲田大学)</p>	<p>13:20-14:20 実践に対する理解と内省を促す協働的評価—教師間の対話は互いに何をもたらしたか—</p> <p>(広瀬和佳子, 神田外語大学/熊田道子, 早稲田大学)</p>
5 (13番)	6 (13番)	7 (13番)	
<p>13:20-14:20 教師間の共創的対話の可能性—日本語学習者に対するライフキャリア教育を目指して—</p> <p>(寅丸真澄, 早稲田大学/佐藤正則, 山野美容芸術短期大学/松本明香, 東京立正短期大学/家根橋伸子, 東亜大学)</p>	<p>13:20-14:20 外国につながる子どもの支援における大学生支援者の省察—一般の大学生は何をどのよう—にふり返るのか—</p> <p>(中川祐治, 大正大学/草木美智子, 法政大学)</p>	<p>13:20-14:20 言語文化教育はどのように研究されているのか—ALCEの学会誌を対象に—</p> <p>(大河内瞳, 神戸大学/香月裕介, 神戸学院大学/伊藤翼斗, 京都工芸繊維大学)</p>	
8 (11番)	9 (11番)	10 (11番)	11 (13番)
<p>14:25-15:25 大学で学ぶ留学生のキャリアの転機とは何か—日本での「留学」「就職」をめぐる語りから—</p> <p>(山本晋也, 周南公立大学)</p>	<p>14:25-15:25 保育所や幼稚園に子どもを通わせる外国人保護者に対する日本人保護者の意識調査</p> <p>(樋口尊子, 大阪大谷大学/杉本香, 大阪大谷大学)</p>	<p>14:25-15:25 当事者の経験の省察を促す共同的話—「クロスロード:外国につながる子ども達の支援員編(仮)」制作・プレイ過程と類似ゲームのプレイ過程の比較から—</p> <p>(松井かおり, 朝日大学/石田喜美, 横浜国立大学/半沢千絵美, 横浜国立大学)</p>	<p>14:25-15:25 質的データを基に分析・考察を行うレポート執筆活動—語ったり、聴いたり、記述したりすることで違和感や疑問を理解する—</p> <p>(菅智穂, 立命館大学)</p>

12 (13番)	13 (13番)	14 (13番)	
14:25-15:25 地域日本語教育の支援者の対話活動 に対する意識調査 ー対話活動で扱うテーマ・対話活動の 重要性・楽しさ・難しさに着目してー  (友宗朋美, 筑波大学)	14:25-15:25 複数言語環境で育ってきた大学生 は、自身のことばの学びをどのように 捉え、意味づけているかー高校時代、 大学入学後、3年間にわたるインタビ ュー調査からー  (小林美希, 早稲田大学)	14:25-15:25 社会文化理論から見た教師の成長ー 日本語学校における新人日本語教師 のペレジヴァーニエー  (加藤伸彦, 京都外国語大学)	
<b>15:25-16:05 口頭発表 (発表者対面)</b>			
<b>口頭発表 (30分)</b>		<b>口頭発表 (40分)</b>	
23番	24番	26番	27番
15:25-15:55 社会文化理論からみた言語意識の形 成についてーLantolf および van Lier の理論を中心としてー  (寺村優里, 京都大学)	15:25-15:55 言語教師を目指す社会人学生の動機 づけ  (鈴木栄, 東京女子大学)	15:25-16:05 アンチレイシストを自認する英語教育 研究者のオートエスノグラフィー  (中原瑞公, 大島商船高等専門学校)	15:25-16:05 言語文化教育にポスト質的研究をひ らく試みー食と景観に着目したナラテ イブとフィールドワークの実践からー  (佐藤剛裕, 有限会社佐藤事務所)